

逸話から 証拠へ

イングランド聖公会 教会成長研究報告書
2011~2013年

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。

しかし、

成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

www.churchgrowthresearch.org.uk

薦めの言葉

中部教区主教 ペテロ 渋澤一郎

この度、宣教局教育部・礼拝部によりこの「逸話から証拠へ」が翻訳されました。これは英国聖公会が2011年から2013年にわたっての教会に成長をもたらした諸要素を研究調査した報告書です。

この報告書は単純にこうすれば教会は成長するということを行っているのではありません。「教会成長に唯一の特効薬はない」、「教会の衰退を防ぐ簡単な解決策はない」ということを踏まえながら、その上で、英国において成長している教会の要因は何なのか、また、逆に衰退している教会の原因はどこにあるのかということをはっきりとすることにより教会成長へのヒントを与えています。

国教会である英国聖公会と日本聖公会、あるいは中部教区を単純に比較することはできませんが、教会の抱えている課題や悩みは共通するものがあります。英国聖公会の試みに触れることにより、わたしたちの教会の宣教・牧会に対しても示唆が与えられるものと期待します。

序文

教会の成長について、わたしたちは何を知っているか？

教会は成長しているか？

どこで特に成長しているか？

成長している教会がある一方で、衰退している教会があることの原因について、私たちは何を知っているか？

成長している教会と、衰退している教会に見られる特徴は何か？

全く何の変化も生み出さない戦略とはどのようなものか？

「教会の成長に関する研究プログラム」(the church growth research programme)は、**支出計画事業部**(spending plans task group)の委託を受けて、**大主教協議会**(the archbishop's council)と**財務委員会**(the board of the church commissioners)に報告されたものである。本プログラムでは、数値的な教会の成長に関連する諸要素について、包括的な研究を行った。

2011年から2013年にかけて、18か月間にわたって行われたこの研究調査は、イングランド聖公会において、教会に成長をもたらした諸要素を把握することを目的としたものであった。従って、どの地域で宣教・牧会の数値的な成長が見られたのか、そしてその理由を明らかにすることが、主な眼目となった。

研究の結果、教会の成長に関する、豊かにかつ幅広い理解が示された。無論、これで、全ての問いに対する完全な答えを提供することができるとは言えない。しかし研究チームは、実際の証拠を明らかにした。そして、教会の成長に関する研究分野において、意義ある貢献をした。また調査によって見出されたことについて、今後より深く研究するための確固たる基礎を据えたのである。私たちの調査結果がより一層の議論と研究を喚起することを、私たちは望んでいる。そしてこの結果が、イングランド聖公会が確かな証拠に基づいて政策決定を行っていくための、更なる一步を共に踏み出していく一助となることを願ってやまない。

目次

序文	1
「教会の成長」という概念	3
研究の目的	3
研究を構成する要素	4
研究課題	5
要約報告	5
第1章	
成長のための“唯一の秘訣”はない	7
どのような要素が成長に関わっているのか？	7
パリッシュ (parish 教会区) 教会の調査からの結果	
第2章	
どこで成長が見られるか	12
教会区教会 (パリッシュ・チャーチ)	13
「教会の新しいあり方」	14
開拓教会	17
主教座聖堂と大教会	19
第3章	
衰退を防ぐ“簡単な解決策”は無い	23
どのような要素が衰退に関わっているか？	
子どもと若者の減少	23
合同 (amalgamations) の効果	25
衰退をもたらすその他の要素	28
成長にも衰退にもそれほど重要な関連を持たない要因	29
研究チームの詳細	30

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

「教会の成長」という意味

本研究は、「教会の成長」の数値的側面に焦点を当てるものである。しかし、「教会の成長」をより広い意味でとらえるとき、数値的な成長は、勿論重要な要素ではあるものの、成長の一つの側面に過ぎないことを認めないわけにはいかない。

イングランド聖公会は英国の国教会 (the established church) であり、魂のケアにあたる聖職者たちを全国に派遣し、あらゆる人が礼拝にあずかることのできる場所を提供する責任がある。

教会は、その使命の遂行の上で、次のような成長を求める。

- 構成員の聖性、変容、及び関与（質的成長）
 - 個人と教会のいずれにも要求される
- イエス・キリストの弟子の数の増加（数値的な成長）
- 社会正義の結果と、社会の変革（キリストの弟子として我々が活動した結果として現れる成長）

教会を成長させることが出来るのは、神のみである（I コリ 3：5-9）。それゆえ、成長は自ら達成されるものではない。教会が福音に忠実に生き切った時、その成長は自ずと善きものとなる。時には、教会が福音に忠実でありながらも、成長が見られないことがあった。また、福音に忠実でなかったにも関わらず、比較的人気を博したこともあった。

神は教会に、ご自分の使命を担うという恵みを与えられた。教会は(上に述べたあらゆる次元と概念において)その働きを実効あるものとし、更にそれを発展させ、そしてそれにより現在の成長の範囲を一層広げていくために、神からの恵みを大切に保つ必要がある。

「教会の成長」神学に関するさらなる情報や、「イングランド聖公会の使命、存在、成長」というテーマについて、多様な引用を含む文書を利用する場合は、下記のウェブサイトを参照のこと。

www.churchgrowthresearch.org.uk

研究目的

本研究は、支出計画事業部 (Spending Plans Task Group) が委嘱し、大主教協議会 (the Archbishop's council) と財務委員会 (the Board of the Church Commissioners) に報告されるものである。研究調査を行った 10 の理由は、下記の通りである。

- 1 宣教を支援するための実用的な論拠を見つけ出すため
- 2 21 世紀におけるイングランド聖公会のアイデンティティと状況をよりよく理解するため
- 3 教会の成長に関連する問題を明確にするため
- 4 教会の成長において何が効果的で、またその理由を確認するため
- 5 同様に、教会の成長において何が効果的でないか、またその理由は何かを確認するため
- 6 良い事例を支援し、それを広くいきわたらせるため
- 7 神の国の福音をどう効果的に伝えるかを理解することが重要であるため
- 8 イングランド聖公会の教会人口が減少しているため
- 9 良い管理方法について情報を提供し、資金が効果的に運用されているかを確認するため
- 10 更なる研究調査が必要な地域を特定するため

この試みが、更なる研究調査が必要な地域への調査につながることを期待する。

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

研究を構成する要素

研究は三つの部分から成っており、それぞれの実施に当たっては、経験豊富な研究者たちが、慎重に選抜された。

研究チームのメンバーの写真と詳細な情報については、最後のページを参照されたい。

1 データ分析

研究チームは、イングランド聖公会が教会区(パリッシュ)及び大教区から年次報告を通して定期的に収集した既存の資料、及びその他の資料(人口統計調査を含む)を分析し、適切な統計の方法を用いて、どの要因が教会の成長と関連しているかを浮き彫りにし、既存の資料が何を物語っているかを探求した。

2 教会の特徴分析

年次報告より広範な資料にあたり、成功に繋がる要因について、より深く調査するために、研究チームは諸教会を対象として、豊富なデータ収集調査を行った。これにより、広範な文脈と伝統の中から、現に成長を遂げている諸教会の特徴を把握し、それを既存のデータと関連付けることができた。調査には1,700人が回答した。

3 組織・体制(主教座聖堂、「教会の新しいあり方」、及び教会開拓、統合とチーム宣教・牧会)

様々な研究者が、次のような課題に注目した。

- a) 主教座聖堂の成長、及びその他都市部の教会や大教会との比較
- b) 教会開拓、及び「教会の新しいあり方」が、教会全体の成長に及ぼす影響
- c) チームミニストリーと共同牧会体制の効果

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙Ⅰ 3:6

研究の課題

イングランド聖公会の現状について、教会の成長に関わる諸要素を、計画的に、また多様な方法を用いて研究する試みは、これが初めてのものである。

これまで教会の成長に関して、このような計画的な研究調査がほとんどなされてこなかった。そのため、本研究チームは活動の始めから、資料の不足とその質に関する相当な課題に直面することとなった。そのため、データとその結果のベストなものが得られるように、イングランド聖公会の調査統計局は、当研究チームと共に、教会を中心にすでに集められていたデータを提供するよう

求めた。その結果、資料は一層充実したものとなり、将来において更なる分析に利用できるものとなった。

本研究と研究者、研究対象、方法論、所要期間についてより多くの情報を得るため、また討論に加わるためには、下記のウェブサイトを参照のこと。

www.churchgrowthresearch.org.uk



Follow us on Twitter
@churchgrowthRD

実践に向けての要約

“成長に秘訣はなく、衰退を止める簡単な解決策もない。成長への道程は、個々の状況によって異なる。あるところで効果を生んだことが、他のところでは何の効果ももたらさないこともありうる。決定的に重要なのは、会衆が自らを顧みることへと招かれているということであろう。教会は自動操縦で飛行することはできないのである。成長とは、(一般信徒、および按手された教役者による)すぐれた指導力と、自ら進んで教会に通う信徒グループの働きとがあいまって、好ましい環境の中で成し遂げるものなのである。” デイビット・ボアス David Voas 教授／資料分析及び教会分析

我々研究チームは、豊富な資料から、調査結果に通底する何らかの明確なテーマやメッセージを読み取ることができるようになった。研究結果には、我々が予想し得た事と、意外な事とが混在していた。すなわち、教会の生い立ちや成長について、後押しさえ、祝福したくなるような物語があった一方で、英国の宗教に

対する認識の変化、国内の教会出席者の減少傾向と言った背景を踏まえて立ち向かわなければならぬ、深刻な問題もあった(統計によれば、過去10年間で、全ての年齢層において、礼拝への週間平均出席率に9%の減少が見られた)。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

その中で、いくつかの教会が、注目すべき成長を遂げている。この中には、いくつかのパリッシュ（教会区）教会、開拓教会、そして「教会の新しいあり方」（特に教会に通っていない人々に照準を合わせた、新しい形式の礼拝やあかしを行う共同体）が含まれる。一方、主教座聖堂でも、過去10年間に、概ね出席者数（特に主日以外）の増加が見られた。

この調査結果から研究チームは、教会の成長に秘訣はないとしても、教会の規模や、場所や、状況に関わりなく、成長と密接に関連する*共通の要因が、いくつかあるという結論に至った。

- すぐれた指導力
- 明確な使命と目的
- 進んで自己を見つめ直し、状況に応じて変化、適応しようとする姿勢
- 育成された信徒の関わり
- 成長を最優先課題と意識する
- 確立された礼拝様式を意識する
- 信徒の育成を意識する

これらのすべてのことが、教会の成長と関連している。

*注目すべきは、「関連」(association)という言葉が、因果関係を作り出すという意味ではない、ということである。言い替えば、「関連」自体は何かを証明したり、あるいは反証を挙げるものではない。二つの事柄の因果関係の有無に関わらず、それらがせいぜい、数学的に関連していると示すだけである。従って、研究によって確かに言えることは、そこには「関連性がある」ということだけであり、なぜそこに関連性があるのかを証明するものではない。もし関連性が見いだされたならば、次の段階としてそれらの要因の間に相互関係があるか、それはなにゆえか、またどのように関連しているかなどについての調査・研究へと進んでいくことになる。

同様に、ある要因は、教会の衰退と関連している。若者たちが教会から離れないようにすることが、ますます急務となっていることが確認された。子どもや16歳以下の青少年が一人もいない教会は、衰退する可能性が非常に高い。約半数の教会で、16歳以下の青少年の人数は5人に満たないのである。

多数の教会を、一つのグループとして一人の指導者の管轄に置く戦略は、概して教会の成長に悪影響をもたらしている。また、多数の教会の合同(amalgamations)とチーム(teams)も、成長の可能性は低い。一つの共同体に、一人の指導者がいる場合において、教会は成長しやすい傾向がある。

礼拝のスタイルや、神学的な伝統の中で教会がどのような立場を取っているかは、そこに一貫性と明瞭さが担保されており、そのスタイルや伝統が(会衆に)心から受け入れられているならば、成長とは何らの重要な関連も持っていないようである。

今我々は、明らかに以前より多くの情報や証拠、事実、数値、出来事を手にしており、それらは本報告でも精査されている。また今後のより詳しい、より進んだ議論と行動へとつながるものでもある。

教会の指導者、決定権を持つ者、また牧会に携わる人々は、成長しつつある教会を支援する牧会のしくみを形作る上で、ふり返り、識別し、決定を下すことにおいて、有利な立場に立っている。それら成長しつつある教会は、あらゆる人に絶えず心を砕き、21世紀においても、更にそれ以後も、神に栄光をもたらし続けることとなるだろう。



“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

成長のための“唯一の秘訣”はない
どのような要素が、成長と関連しているのか？



“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

本報告において、教会に関する研究調査の結果と、他の項目にみられる証拠から“成長に唯一の秘訣はない”ことは明らかである。しかし、パリッシュ（教会区）の教会の成長には、多数の“要素”が関係しており、このような要素は、他の状況にもあてはまる可能性がある。

文脈 Context

社会人口学的な文脈は、数値的な成長と出席率にとって重要な要素である。成長が難しい郊外の地域においても、人口比率に対して最も高い出席率を示した例があり、またアクティブな聖公会信者の数が相対的に少ない都市部においても、成長する教会があった。

	高い出席率	低い出席率
潜在的な成長の可能性がある地域	郊外中産層	クリスチャン移住民が多い都心地域
最近伸びやかなでいる地域	農村	生活苦に悩んでいる英国白人人口が多い都市と小都市

図1. 成長／出席比率 表

大都市や地方都市においては、出席率が比較的低い。これは何十年も前に始まった都市の衰退現象が残した遺産の一部だと言える。しかしこの状況は逆転する可能性を秘めている。農村地域の教会は、人口に比例して、より多くの人々が礼拝に出席しているが、衰退が始まる可能性も高い。つまり、教会の成長は、信徒の年齢層が若く、都市地域に位置しており、民族的少数者 ethnic minority の出席者が多い地域で、より多くみられる。

従って、単純に“都市”と“農村”を二分することだけでは、正確な判断を下すことは出来ない。“都市”と“農村”を定義するのにも、いくつかの異なる方法があり、それぞれの方式によって結果も変わってくるからである。このような事実を十分考慮しなければならない。

指導力 Leadership



研究チームは教会に関する研究調査に加えて、**教役者の調査** (survey of clergy) を実施した。これは、教役者たちのふるまいと特徴との間に**関連があるのかどうか**を調べ、**教会の成長につながる教役者の特定の行動を調査**するためである。

調査の結果、教会成長を導く効果的な指導力とは、「成長への意思を伴う、特定の資質と技術との結合」であることを確認することが出来た。

教役者調査の結果によれば、数値的成長を優先的に考える聖職者と、実際に数値的成長を成した教会との間には、強い相関関係があった。

聖職者たちに、どのような分野の成長に**優先順位**を置いているかを質問したところ、数値的成長を最優先にしていると答えたのは13%のみだったが、（調査項目の他の内容は、霊的成長/信徒教育と社会の変化だった）、この数値は**実際の成長率とかなり密接な関連性**をもっていることがわかった。

これらの調査項目の関連性について報告するとき、研究チームはその因果関係について十分承知しており、当然それを考慮している。特にそれは、客観的な調査結果による主観的な成長報告において顕著である。

「人々をやる気にさせるという強み」についてたずねたところ、回答者の3/4以上が、「人を動機付けて励まし、実践できる情熱を吹き込んで、教会の成長を導くことにおいて、（自分は）他の人たちよりも優れている」と答えた。この点において「強さが足りない」と述べた教役者のうち、成長が報告されたケースは1/3にすぎなかった。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

調査の結果、下記に示すリーダーの資質が、教会の成長と明確に関連していることが明らかになった。

- ▶ やる気にさせること (Motivating)
- ▶ 将来を構想すること (Envisioning)
- ▶ 革新的であること (Innovating)

その他、成長に関連しそうな、重要なリーダーのふるまいとして、以下の要素が挙げられる

- ▶ 外部の人や新しい信徒を引き寄せる能力を持つこと
- ▶ 礼拝の方式や伝統に意識的であること
- ▶ 成長のための明確なヴィジョンを持ち、それを実現するために新しい挑戦をすること
- ▶ 成長を優先的に考えること
- ▶ ヴィジョンと目標設定に熟練していること
- ▶ 牧会と宣教のために人を教育することができる能力を持つこと

このような調査結果を考慮するとき、「すべての人はそれぞれ異なる資質と性格、そして長所を持っている」という事実を心に留めなければならない。特定の要素の中には、前述したような教会の成長を導く上でより有用なものがあるかもしれない。

また、「召命の意識」も、重要な要素として認められた。特定の召命に従おうとする人たちは、教会の成長を導く上で、他の人々より特に助けになる。これは確かな事実である。しかしもう一度言っておきたい。“成長に唯一の秘訣は無い”。

明確な使命と目的意識



「明確な使命と目的意識がある」と答えた教会は、さらに多くの成長を記録したことが明らかになった。そしてそうした教会の内、64%が実際に成長し、25%が衰退した。

一方調べてみると、「明確な使命と目的意識が全くない」と答えた教会のうち、成長したのはわずか26%であり、52%は衰退した。最後に、「使命と目的意識が不確かである」と答えた教会は、41%が成長し、35%が衰退した。

常に自ら省み、学ぼうとする姿勢

明確な使命と目的意識を持つことと共に、研究チームは下記のように考えた。

“「振り返ること」と「選択すること」が活力の基となる。従って、熟慮して受け入れられた特定のスタイルは、あるがままのスタイルほどには重要ではない”

デービット・ボアス 教授

変化と適応を恐れない姿勢



成長するためには、既存の会衆は変化を受け入れなければならない。研究チームは次のとおりコメントしている。

“少なくとも、新しい人の参加でそれまでの居心地の良さは妨げられる。多分、礼拝の時間や形式は大きく変化するだろうし、建物を使用する時間や方法にも変化があるはずだ。そして決定的なこととして、信徒のリーダーシップの主体は、もっと若く新しい構成員に移るだろう。このような変化は不快なものである…”

異なるタイプの礼拝について質問したところ、回答者の中の一人はこう答えた。

“これら三つのタイプの教会は、多様性や、変化をいとわないことによって成長した。伝統的な夕の礼拝と同様に、「カフェ教会」を成長させ発展させたことによって成長したのである。”

また、礼拝との関係でいえば、成功する教会には、“一度やってみよう”という姿勢があったと研究チームは指摘する。これらの教会は、多様な計画に実験的に取り組む。その結果、効果があると判明すれば持続的に投資し、効果がないことが分かれば大胆にも中止した。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

按手された教役者と同様に、一般信徒にも役割を担ってもらうこと

信徒のリーダーシップは重要な要素である。調査の結果によれば、信徒のリーダーシップの質が優れていることは、成長と関連がある。教会の成長にとって、信徒によるリーダーシップと役割の交代（同じ人がいつも同じ役割を担うのではなく、役割を替えたり刷新したりすること）は強く関連する。しかし回答者の37%によると、いつも同じ人々が教会奉仕をしている傾向があると分かった。



信徒が自発的にリーダーシップに関与して、定期的に役割を交代する教会は、成長する可能性が高い。特に若い構成員たちと新しい信徒が、リーダーシップと奉仕に参加する教会の成長の可能性は高かった。

以上の調査結果から、「信徒奉仕者の数が限られており、役割の交代をしない教会は、衰退する可能性が高い」ということがわかる。リーダーシップをもって奉仕する力を持っている人の数が少ない教会にとって、これは困難な課題である。なぜなら、そのような状況下では、役割の交代が難しいからである。

研究チームは、回答者たちに次のような質問をした。

“あなたの教会では、いつも同じ人たちだけが奉仕をする傾向にありますか。それとも、多数の信徒が交代で教会奉仕に関わっていますか？”

- ① 「毎年同じ人が奉仕活動を継続する傾向がある」と答えた教会は、**8%の成長率**を記録した。
- ② 「(限られた人だけが奉仕に参加する傾向があるが) ある程度、役割交代が行われている」と答えた教会は、**19%の成長率**を記録した。
- ③ 「リーダーシップをもって奉仕する人々が頻繁に役割を交代する」と答えた教会は、**47%の成長率**を記録した。

調査に応じた大部分の教会は、二番目のカテゴリーに当てはまり、三番目のカテゴリーに属していたのは7%だけであった。

(27頁：『信徒リーダーを支える信徒』増加)を参照)

子どもと青少年に積極的に関わること



成人に対して子どもの比率が高い教会では成長がみられた。子どもや10代の青少年のためのプログラムを提供している教会は、成長する傾向がさらに強い。

若者のための修養会や集まり、キャンプを開催した教会の3/4が成長を報告した一方で、開催しなかった教会の中で、「成長した」と報告したものは、半分程度にとどまった。

教会に出席しない人たちと既存の共同体の外にいる人たちに積極的に関わること



教会の外へ視線を向けることは宣教の核心である。成長している多くの教会は、地域社会と関わりを持っている。調査によると、教会が(債務に関する相談や支援活動、夜間シェルターなど)、社会福祉事業や環境活動を展開することは、成長に肯定的な影響を及ぼした。

教会外の人たちへの奉仕を目的とする活動の中には、統計的に見て、数値的成長にはそれほど影響を及ぼさなかったものもある。しかし、これらの活動は、確かに価値あることであって、変容する社会との関連においても重要である。

この調査では確証できないことではあるが、回答者たちは「地域社会と関係を結ぶことは、教会の存在をより顕著にして成長をもたらす可能性を持っている」という希望に満ちていた。

“わたしたちは地域社会の教会であり、地域社会のための教会である。私たちは地域社会と親密な関係を結んでいる。多くの種を蒔いた後は、飛躍の時期へ入ることができるよう願っている”

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

“私たちの地域はきわめて貧しい。人の移動が多く、人々は毎年地域から離れ去る。…しかしいつも新しい人々が代わりにやってきて、その穴を埋める。こうした地域では教会の役割が大事であり、住民たちは必要な時に教会に助けを求めてやって来る。”

調査に応えた教会の 1/3 が、フェイスブックをはじめ、その他のソーシャルメディアを定期的を使用していると答えた。このような教会の中の 2/3 が成長し、一方で SNS を利用しなかった教会で成長したのは半分のみであった。しかし、ここから確かに言えるのは、それはソーシャルメディアによる効果というよりも、「(ソーシャルメディアを使うそれらの教会が) 若く、活発なリーダーシップを備えた教会である」ということの証左であった」ということである。

訪問者を歓迎し、関わりを持続すること



成長中の教会の回答者のうち、多くの人が、“居場所、配慮が行き届いている場所”としての「歓迎する雰囲気」を、成長の要因として挙げた。人々は教会の「歓迎する

雰囲気」や、文化について話した。一番直接的な成長の方法は、教会の構成員たちが家族、友人、知人を招待して、歓迎することだった。

礼拝やその他の活動に参加した人々は、新しい信徒となる可能性をもっている。これらの人々に後日連絡することは、成長と関連をもっていた。また、回答は、「持続的な関係を形成することが重要である」という事実を反映している。具体的な例としては、「家族になったような感じをつくること」「コーヒーを一緒に飲んでおしゃべりすること」「互いに愛しい、仕えあおうとする心」「募金活動をはじめ他の活動を共にすること」などがある。

新しい信徒と既存の信徒の育成に関わる



具体的な信徒育成コースや、“日常の中でキリストの証人として生きるための準備”コースを通して、「信徒への励ましや支援を提供している」と答えた教会のうち、2/3 が成長をみせた。反面具体的な信徒育成コースがないか、あるいは「説教を通して多少は強調している」と答えた教会の中で、成長した教会は半分未満であった。

ヴィジョン



“成長のためのヴィジョン”をもつことが、教会成長の全般的な要因と言われている。実際のところ、成長は機械的になし遂げられるものではなく、深い反省と献身、試みと刷新が生む結果なのである。多くの回答者たちが、「祈り」と「聖霊」を、成長の要因として挙げた。

“わたしたちは「宣教の5つの指標 (the Five Marks of Mission)」に基づいて、戦略的で細やかな宣教事業計画を発展させてきた。教会のすべての決定は、「5つの指標」を考慮して行われている。そしてわたしたちには、意見を聞くためのグループがいくつもある。これらによってわたしたちは、身も心もすべて、宣教を中心とする姿勢を保っていると確信することができる”

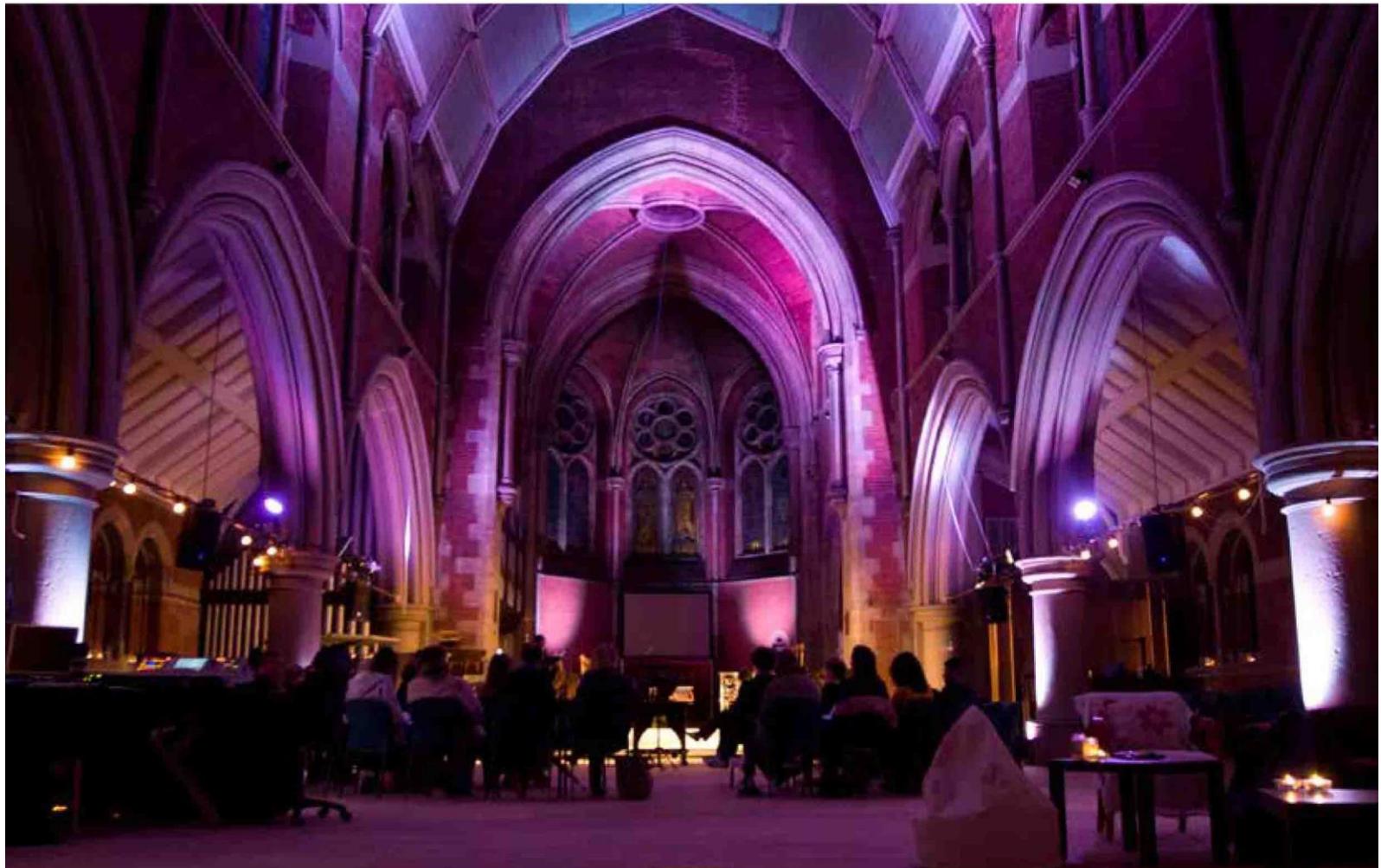
“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

成長のみられるところ

嬉しいニュースがある。「成長しつつある教会がいくつかある」ということである（2000年から2010年までの間に18%の教会が成長し、55%は現状を維持、27%は減少した）。教会にこない人々と関わるための新しい方法がいくつか明らかにされつつある。時としてそれは、「既存のものを土台としつつ、新しい流行や状況に対する変化・適用を喜ぶこと」である。また新しい方法で、異なるスタイル、時間の組み方、モデルを持つことを始めた教会もあった。

本研究報告では、多様な事例研究を利用した。それは、実際に数値的な成長結果を出し、良い刺激となるような教会の事例を強調するためである。但し、本研究では特別にすぐれた成長事例を選んで紹介している。そのため、全ての環境と状況に一般化してあてはめることはできない。



“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

教会区教会 (パリッシュ・チャーチ)

事例研究

ヤクスリー、聖マリア教会 St Mary, Yaxley (サーフオーク州)

教区：聖エドモンドベリー及びイップスウィッチ

有形：村のパリッシュ（地域、教会区）教会

成長：2009年 週当たり平均出席者数 9名
2010年 週当たり平均出席者数 35名



2009年、ティファール・ロビンソン Tiffer Robinson 司祭が補佐司祭として着任した時、聖マリア教会では、月に2回主日礼拝を献げていた。ヤクスリーには、若い年齢層の家族を多く含む、地域コミュニティが発展していた。そのヤクスリーの中心部に位置したにもかかわらず、当時のマリア教会は衰退の一途をたどっていた。

ティファール司祭は宣教・牧会の効率性を高めることに熱心であった。彼が担った宣教・牧会地域の全体に薄く手を広げるのではなく、聖マリア教会の一か所にだけ集中すれば、教会の周りの状況を変える機会が到来すると見込んだ。この提案は、ティファール司祭の指導司祭たちや任地、そして教区の支援を受けた。

幾つかの段階をふんで計画は実行された。

まず、聖マリア教会は毎週主日午前 10:30 に日曜学校と一緒に礼拝をするようになった。これを '10:30 クラブ' と名付けた。この新しい計画は、2010年に展開した“日曜日には教会へ戻ろう” Back th Church Sunday 運動と共に実施された。ティファール司祭はヤクスリーの全ての住民を訪ねて“日曜日には教会へ戻ろう”運動に招待し、人々がほかの隣人を招待するように奨励した。その結果 58名の成人と 17名の子どもたちが出席するようになった。

次に、ティファール司祭は詳細な計画を立てた。新しい礼拝には、教会に戻ってきた人たちにとって親しみやすい要素と、交わり、喜びに満ちた雰囲気と楽しみが盛り込まれた。地域の学校における会議では、10・30 クラブへの参加が奨励された。

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

教会の新しいあり方

‘教会の新しいあり方’は、礼拝と証をする、比較的新しい共同体(集い)のあり方で、「これまで教会が関わることのなかった人々に近づこう」という試みである。

このような共同体は、本研究で紹介された教会の中でも、最も新しいタイプに該当する。そのため、統計をみながら直接比較する時には、より注意を払わなければならない。特に「教会の新しいあり方」と伝統的な礼拝共同体の成長数値を比較する場合に、このことはあてはまる。

「教会の新しいあり方」には、「メッシーチャーチ Messy Church」、「交流センター」を中心とする教会、カフェやバーがある教会など、少なくとも20種類以上のタイプが存在する。多様な環境とイングランド聖公会のあらゆる伝統において、これらの教会は非常に多彩な場所で集いを持っている。半分以上(56%)の共同体が、(既存の)教会以外の場所で礼拝を献げている。

	場所	%
194	教会	37.5%
33	教会と会館	6.4%
82	教会の会館	15.8%
58	多様な場所	11.2%
15	家庭	2.9%
136	公的な場所	26.3%
518	総合	

図2. 「教会の新しいあり方」に該当する共同体が集まる場所

「教会の新しいあり方」は次のような共同体を目指す。

- 教会の外の人たちに奉仕をする**宣教的**な共同体
- 人々の話に耳を傾け、その文化に入って関係を作ろうとする、文脈的な共同体
- 信徒育成を優先する**教育的**な共同体
- 教会を形成するための**キリスト教的**共同体

以上の調査は10個の代表教区で遂行された。

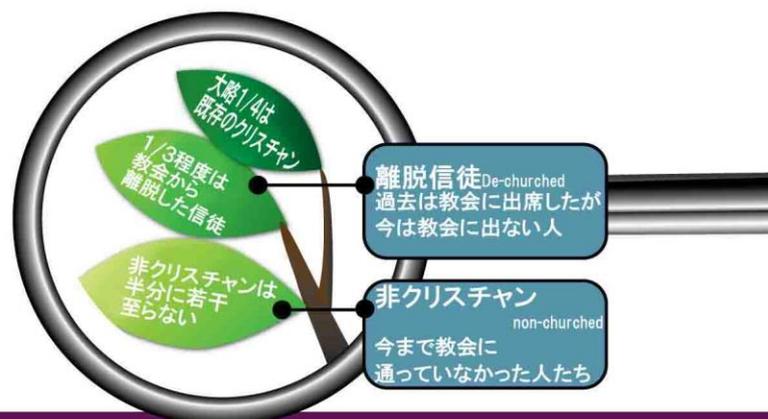
「教会の新しいあり方」に分類される共同体は、次の幾つかの基準を満たす。

- 「教会の新しいあり方」とは、既存の共同体を修正したものではなく、キリスト教的・共同体的で、新しく前に進んでいく集いを意味する
- 教会に行かない人たちとの関係を結ぶために努力する
- 少なくとも一か月に一回以上の集いを持つ
- 自分達の個性を現わす名前を持っているか、持とうとしている
- 「教会」になろうとしている(人々が“本当の教会”へ戻ることを助ける橋の役割をすることではなく)
- 教区の構成員として主教に受け入れられる
- 共同体の内外で指導力を認められる
- 大多数の構成員たちが、それを「教会のすぐれたありかた」だと見なしている
- 「上」に対しては「聖なるもの」で、「内」に対しては「一つ」、「外」に対しては「使徒的で普遍的な共同体」になろうとしている
- (与えられた環境に相応しく)財政的に自立し、自治的であり、自分たちで成り立つ共同体になろうとする意図がある

“もし教会が明日閉じたとしても、「教会の新しいあり方」はすぐに公民館に移る”

誰が参加するのか？

「教会の新しいあり方」は、それではなければ教会に行かないような人たちの心をひきつけている。調査当時、「新しい表現」の指導者たちは、共同体構成員の比率を次のように推定した。



“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

そして
「教会の新しいあり方」を
スタートするにあたって
派遣された1名につき
共同体に参加する人数は
2.6名増加した

- ▶ 半数弱が16歳以下である
- ▶ 10教区に属する477の「教会の新しいあり方」の参加者数は約21,000人で、これは新しい中規模の教区1つ分に相当する

「これらの人々にとって、神様は完全に目新しい存在だった」

「教会の新しいあり方」の、とあるリーダー

「教会の新しいあり方」は成長していくのか？

研究チームは、「教会の新しいあり方」の成長の期間を、少なくとも3年間(3年から、時として20年間に及んだ例もあった)と推計した。このような結果から分かる事実は下記の通りである。

- 😊 **66%** はまだ成長中、あるいは成長を維持している。
 - 😞 **25%** は成長はしたものの、現在は衰退している。
 - 😞 **9%** は数年間出席率に変動があった。
- そして
調査対象の**10%**は消失した。

“時として英雄的な努力がみられたにもかかわらず、宣教が非常に難しい場所がある”

「教会の新しいあり方」のとあるリーダー

他の重要な要素としては、

- ▶ 半分以上(52%)の共同体を信徒が運営している
- ▶ このような信徒の大多数は該当分野の正式な訓練を受けていなかった
- ▶ 40%は“教会バッジ”を付けておらず、共同体運営は余暇の時間に行われる
- ▶ 「教会の新しいあり方」は、女性と男性がほぼ平等な立場で共同体を運営する

- ▶ 「教会の新しいあり方」の平均人員は44名である
- ▶ 82%の共同体が、まったくあるいは部分的に、その地域や背景特有のものである
- ▶ 78%の共同体は信徒育成に積極的
- ▶ 2003年と比べると、新しく始められた共同体の数は現在4倍に増加している。2003年には20もの新しい共同体が生まれたが、最近の数値では、2012年には80個の新しい共同体が生まれている
- ▶ 「教会の新しいあり方」の80%以上が、子どもを含む全ての年齢に焦点をあてている。
- ▶ 7%が子どもに焦点をあてている
- ▶ 74%は全ての年齢を対象にしている
- ▶ 19%は成人のみに焦点をあてている

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

“子どもは教会に来るたびにさらなる信仰を深めているようにうかがえた”

「教会の新しいあり方」のとあるリーダー

“お母さん、日曜日はお母さんの教会だけど、メッシーチャーチ Messy Church は私のものだよ。”

メッシーチャーチから聞こえてきた

「教会の新しいあり方」について

“このような現象はすべて、小さな出来事がたくさん積み重なってできたこととして理解するのが最も良い。… ‘小さい’ という言葉は相対的な用語である。ここでは教区内の一般的な会衆と比べたときの差を意味している。この要因により、「教会の新しいあり方」を始めようという試みが、更に広範な既存の会衆の中から生まれた。”

救世軍研究部

事例研究

ハイストリート、聖ルカ教会 St Luke's in the High Street

教区：チェルムスフォード

有形：「教会の新しいあり方」

成長：2007年週当たり平均出席 4～10名

2013年週当たり平均出席 25名



フランシス・シュースマス Frances Shoemith 司祭は、ワーストー Walthamstow 教会区（パリッシュ）の協働管轄司祭であり、開拓聖職者 Pioneer Minister として、ハイストリーの聖ルカ教会を担当している。

聖ルカ教会は建物を持たず、様々な場所で集いを行っている。日曜の午前中には、人々は「聖書、朝食、そしておしゃべり」をしに集まる。それらは地域にあるカフェや、農産物の市場の中で行われる。聖ルカ教会は、温かい飲み物やケーキを食べながら過ごせる屋台を提供している。

フランシス司祭は言う。“聖ルカ教会は成長しつつありますが、とても流動的です。なぜなら、ここに集まる人たちは疲れ果てているからです。ここでの経験は正に、‘神様の御業と臨在を見ている’ ようです。”

最初「聖書、朝食、そしておしゃべり」を始めた時は4名から10名程度の人が集まりましたが、現在、時には25名前後が集いに参加しています。今では多くの人々が、その他の

活動や、日曜日の夕の礼拝から恵みに与かるために、集まるようになりました。午前中の様々な活動の後に、多くを受けて、新たにされる場となっているのです。私は、このような試みこそが、現在も活動している組織や、チーム牧会・宣教との相互作用による「新しい表現」の例だと信じています”

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

開拓教会

27の開拓教会を対象として行なった質的研究と、事例の研究結果によって、「教会の成長は可能である」という事実が証明された。データは主に、インタビューや対話、また一般の会話や教会についての評価を語る声などから集められた。そして研究チームは、多様な資料の分析と共に、教会を訪問して礼拝とその他の活動にも参加した。このように膨大な時間を費やして、教会開拓の様々な事例を調査した結果については以下に詳述する。

教会開拓の取り組みでは、様々な地域や場所で集会が行われている。その中には、どんな状況の中でも成功した開拓モデルがいくつもある。教会堂の中で持たれる集会もあれば、また宣教団体連合(Missional Communities)のように、よりネットワークを活かした方法を取るものもある。

教会開拓のモデル

ブロンプトン聖三位一体教会(HOLY TRINITY BROMPTON)モデルとビショップゲイト聖ヘレン教会(ST HELEN'S BISHOPGATE)モデル

このモデルに該当する教会には、小規模な人数(10-200名)の会衆から成るところもあれば、会衆をもたないところもあった。開拓チームには、通常様々なリーダーがいた。開拓教会には、まず着手金が与えられるが、その後3年から5年の間に自立することが期待された。

大聖堂 MINSTER モデル

中央教会は、その教会に所属しているか、あるいは周辺地域の教会リーダーたちを同僚として支援する。(例：トッテンハムの聖アン教会)

協働宣教モデル

協働の宣教に際して用いられる開拓モデルは、様々なネットワークを基礎として持っている。そして、そのまとまりの中からより多くの資源を持つ教会が、貧しい教会を支援する。またこのモデルは、信徒のリーダーシップに基づいている。それぞれのグループは大人25名程度と、子ども20名ほどで構成される。

ネットワーク教会／宣教団体

宣教団体連合(Missional Communities)は、ネットワークの諸教会とパリッシュ(教会区)教会のいずれにも見られる。シェフィールドのフィラデルフィアに位置する聖トマス教会には、48の宣教団体がある。「失敗を恐れず自由に挑戦しよう」という教会の価値観のもとで、「宣教団体の事業はすべて、教会を開拓する事業だ」と彼らは考える。このような宣教団体の事例の中には、修道院の生活リズムをモデルにしているもの、地域の大通りに位置し隣人に目を注ぐもの、貧しい地域にリーダーが住み、自宅で礼拝をおこなうもの等がある。

細胞(小規模集会)モデル

「細胞」(小規模集会)の中には、パリッシュ教会と並行し、パリッシュの宣教・牧会の一環として営まれる場合と、そうではない場合がある。「細胞」は、地域性や、地域の共通の利益、また人口統計に基づくことが可能である。これらは多く、一定のプロセスや価値観に従っている。また、主日に人々が集まる(一般的な)教会とは違って、しばしば、教会の核心的なあり方であると見なされている。

聖公会-カトリック主義モデル

このモデルは「存在」や「聖奠(サクラメント・秘跡)」についてのカトリック的な理解に基づいている。これらが宣教の核心と考えられる。教会を訪ねて来る人々は、該当のパリッシュにある地域教会が導き、支援する。このモデルは今も発展を続けている。聖公会-カトリック主義の文脈において、「開拓」とは何を意味するのかについて絶えず問いかけがなされている。

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

成長中の開拓諸教会の特徴

開拓教会には企業家的で革新的な取り組み方が明白だったと、研究チームはコメントしている。

頻繁に言及されたコンセプトとしては、「失敗を恐れず自由に挑戦しよう」、「権限を与えること」、「実験」、「最小限の統制と多くの説明責任」、「発展途上にあること」等があった。現在のモデルには実験の余地を認めて、新しいモデルを考案し、開発出来るようにしている。リスクを厭わず、失敗を受け入れることがコンセプトの一部である。

教会開拓に共通する価値の要素は、下記の通りである。

- 関係的、かつ具体的

- 歓迎とホスピタリティの重要性
- 信徒の重要性
- 地域住民の参加
- ボランティア精神
- 集団の重要性
- 若い家庭との関わり
- 癒しに満ちた存在であろうとすること

教区の支援は不可欠であるとみられている。開拓の方針を明確にすることも助けになる。開拓地の中には、確かに自立に成功したものもあったが、全く想定していないところもあった。開拓教会は、教会のさまざまな形で実践され、ますます周囲の状況に敏感になりつつある。

事例研究

デルガーノウェイ、聖フランシス教会 St Francis, Dalgarno Way

教区：ロンドン

有形：都市の開拓教会／「教会の新しいあり方」

成長：2010年 週当たりの平均出席者数 12名
2012年 週当たりの平均出席者数 50名



聖フランシス教会は1930年代にダルガノ地区の宣教チャペルに指定された。しかし、最初の成長の後、結局何年間か閉鎖されることになった。やがて2004年、ケンジントン聖ヘレナ教会が、ここに新しい活力を吹き入れるために小規模なチームを派遣し、信徒数は25名までのびた。ところが、ついに2009年から衰退が始まり、希望は失われつつあるように見えた。

翌年の2010年、ケンジントン教区主教とブロンプトン

聖三位一体教会、聖ヘレナ教会の協議ののち、アザリヤ・フランス-ウィリアムス Azariah Hrance-Williams と妻のアンナ Anna が、他の2組のカップルと共に、新しい地域教会の開拓を意図して派遣された。当時12名だった信徒数は40-50名まで増加した。そのうち80%は教会から徒歩圏内に住んでおり、1/3がダルガノ地区に居住していた。教会はイングランドで最も貧しい地域にあった。そこは人口密度が高く、多様な民族集団が居住し、長期にわたり高い失業率を記録している地域だった。

しかし、アザリヤは成長へと導く要素をいくつか見出すことが出来た。それらは「人口統計学を学ぶこと」、「目的にあう有機的な組織を作ること」、「価値観をはっきりさせること」、「リーダーシップを伸ばすこと」、「地域社会への奉仕活動」、「信仰を探究するさまざまな機会をもつこと」

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

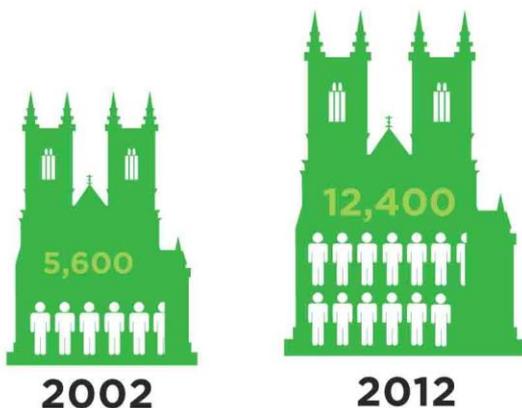
コリントの信徒への手紙 I 3:6

主教座聖堂と大教会 Greater churches

“ここで私は初めて神様に会った。どんな圧力も、批判も受けず、神様について探求することが出来た” 礼拝者調査応答の中から

礼拝活動の範囲について、また教会成長を促進したり妨げたりする要素についてより深く理解するため、イングランドの全ての主教座聖堂の主任司祭にアンケート調査をした。回答率は86% (36/42)であった。これに引き続き、23か所の主教座聖堂で、聖職者と信徒の協議が行われた。また、4つの主教座聖堂において、礼拝参加者に関する調査を実施した。

研究チームは、主教座聖堂の礼拝出席者と、信徒の構成と、そして、礼拝に導かれた理由について調べてみた。その調査の結果、「主教座聖堂の礼拝参加者数は2000年以降持続的に成長してきた」という事実が判明した。



- 2002年から2012年の間(42の主教座聖堂において)週全体の礼拝出席者は35%増加していた。
- 特に平日の出席者数は、過去10年間で2倍以上増加した。(2002年の5,600人から2012年には12,400人に増加)

平日礼拝の出席者増は、社会の変化に関係している。世間において主日の宗教的重要性が変化したのに加えて、ショッピングやスポーツなど、日曜日の過ごし方が多様になったからだ。

“一週間を通じて開いている主教座聖堂が提供する礼拝は、今の生活スタイルには便利であり、靈的巡礼者たちにとっても魅力的だ”

リンダーバルリーLynda Barley、トゥルロ主教座聖堂の主任司祭、トレスリアン、ラモラン、メルダー、ペンケヴィルの聖ミカエル教会担当司祭

主教座聖堂が管区に分割された時にも、成長はみられた。しかし、それぞれの管区に等しく成長が見られたわけではなかった。南部のカンタベリー管区には29の主教座聖堂が、北部のヨーク管区には13の主教座聖堂がある。

主日の礼拝出席者数には変化は無かったが、2007年以来、平日における子どもと大人の出席者数は、カンタベリー管区で13%、ヨーク管区で19%増加した。

全体的にみて、主教座聖堂は過去6年間で8%の成長率を記録した。「静かで節度ある、着実な成長を体験している」という多くの主任司祭からの回答も、このことを反映している。

“成長の道行きは、改革の壮大なヴィジョンと同様に少しずつ、一步一步進むものである。”

主任司祭たちに、礼拝の成長に寄与する要因について尋ねたところ、幾つかのキーワードが上がってきた。

- 礼拝の質 — 礼拝の伝統を踏まえた礼拝出席者に親しみを感じさせる週報
- 音楽の質 — 特に、歌による夕の礼拝と集会礼拝

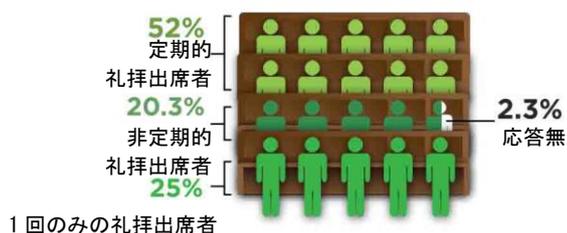
“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

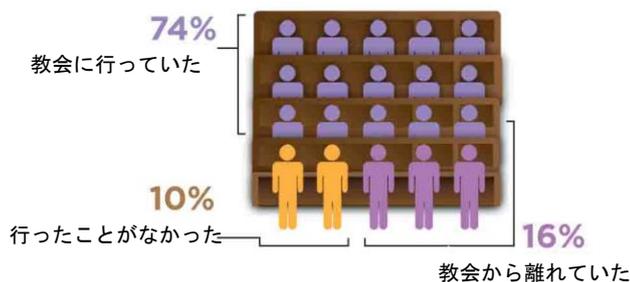
- 説教の質 — 福音と教えに自信が感じられる
- ホスピタリティが実現されていること — 歓迎・親切的な雰囲気、人間味
- 共同体としての意識を養う — 連帯感、若い家庭、学生、献身的なリーダーシップ
- 新パターンの研究 — 新しい礼拝、多様な形式、多様性を高く評価する態度、形式ばらないこと、参加しやすい礼拝時間、世間の注目を集めること
- 霊的に開かれていること — 意図的であること、包括性、祈り、牧会的ケア、黙想・思索のための空間、匿名性
- 家族と若者を重要視する

誰が出席するのか？

4つの主教座聖堂礼拝者に、どれ位の頻度で主教座聖堂の礼拝に出席しているか聞いた。



過去5年間に新たに加わった人たちは、彼らが初めて主教座聖堂を訪ねた時の状況を説明するよう求められた。



*「教会に行っていた人」とは、他教会から籍を移した人々や、他教会で継続して礼拝を守りながら主教座聖堂を訪れた人をさす。

50%以上の回答者が主教座聖堂を自分たちの“故郷教会 home church”と答えた。

主教座聖堂への出席：動機となった要素

礼拝出席への最も強い動機となった要素について尋ねたところ、上位三つの要素は次の通りであった。

- 1  安らかさと落ち着き
- 2  礼拝と音楽
- 3  親切的な雰囲気

反面、最も動機づけにならなかった要素は、「匿名性という願い」と「地域教会との関係を避ける願い」であった

“忙しい一日を終えた後、平和な気持ちで礼拝をし、祈ることが出来る場所”

なぜ、主教座聖堂は成長しているのか？

成長の鍵となる要素は下記の通りであることが分かった。

- 宣教に対する指向性を強化すること

“主教座聖堂にとって宣教は重要な課題である。これなくしては課題を誤解することになる。主教座聖堂の牧会は、伝統的な意味からいっても、また新しい側面からいっても、宣教的なものである”

グロスター主教座聖堂の主任司祭

- 新しい礼拝と集会をスタートさせる
- 礼拝の質を向上させること
- 歓迎することやホスピタリティ(もてなし)のさらなる改善
- 文化や芸術を取り組む
- 共同体構成員たちや地域社会への奉仕活動の中で、霊的な開放性・包容性・多様性のアピール
- 市民としての要素を増やす
- 教育プログラムの拡充
- 信徒の教育とクリスチャン育成を優先すること

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

ウェイクフィールド主教座聖堂 Wakefield Cathedral

教区：ウェイクフィールド

有形：主教座聖堂

成長：過去5年間の出席者数が20%増加

ウェイクフィールド主教座聖堂の礼拝出席率には、1990年代後半から成長の動きが見られた。新しく赴任した学寮長のジョージ・ネルン・ブリックス George Nairn-Briggs 司祭(後の大聖堂主任司祭)と聖職者たちは、宣教と成長に集中した。1999年と2000年には都市と教区だけではなく、主教座聖堂全体を対象に、宣教会計の監査を実施した。主教座聖堂の教育及び育成プログラムやリニューアル計画、聖堂の建物の再整備計画を見直したことによって、主教座聖堂の豊かな礼拝生活が強化された。



2007年、ジョナサン・グリーンー Jonathan Greener が主任司祭として赴任した際には、さらなる前進があった。教育と奉仕活動を担当する新しい信徒リーダーの任命、新しい信徒を歓迎する働きの強化、平日に新たな試みと「2013年計画」を実施した。会衆席により広い空間をとり、「ラビリンズ」(注：床に描かれた黙想用の迷路)を備えた。このような努力によって持続的な成長がみられた。

特に過去5年間、主教座聖堂に定期的に出席する人々の数が20%増加した。平日の礼拝出席者も同様に目に見えて成長し、訪れる人の数も増加した。

2013年、礼拝参加者に関する調査において、回答者たちは主教座聖堂の発展の様子に対し好意的な感想を残した。

“リラックスして礼拝を献げることができる所、肯定的で思索的な雰囲気、親切で温かいスタッフと会衆”

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

“統計によれば、すべての世代の人々が主教座聖堂の礼拝にひきつけられている。教育行事及び市民行事に参加することができるからである。また私たちの主教座聖堂が、「すべての訪問者・礼拝参加者に開かれている」状態を確保するために奉仕してくれる。”

ベヴ・ポーティング博士、大主教協議会研究及び統計担当者

“主教座聖堂やそこで挙げられる礼拝、そしてこれに携わる聖職者は私に靈感を与えてくれる。ここは都市の真ん中に立っている大事な灯台だ。教会を離れたすべての求道者、迷える羊にとっての避難所なのだ”

礼拝参加者に関する調査より

大教会 Greater Churches : 比較研究と調査結果

研究チームは、42の主教座聖堂と同時に、他の46の教会に対しても調査を実施した。(その内36の教会は、大教会ネットワーク Greater Churches Network に所属している。その他は、主教座聖堂と似通った宣教・牧会形式を持つ教会である。これらのうち幾つかは、2013年現在、大教会ネットワークに合流している。)

大教会は、多様な教会の集まりである。「歴史的な建築物を持っている」、「大衆的な認知度がある」、「教区の中では支援的な役割をしている」等の点で、主教座聖堂と同タイプの環境で、牧会や宣教を行っている。

研究チームは該当する教会の在職者たちにアンケートを送って、11の教会で質的研究調査を実施した後、その結果を全国各地の聖職者の調査結果と合わせ検討した。

それにより、研究チームは主教座聖堂との違いをいくつか発見した。しかしまた、次のようなことも明らかにした。「イングランド聖公会の中で、大教会の重要性がますます増加している」という事実と、「大教会ネットワークが特に貢献しているということ」、そして「新しい都市大聖堂(都市や町の中心部へ位置しており、主教座聖堂と類似した公的な働きをする教会)が勃興している」、ということである。

10年も経たないうちに、大教会ネットワークに参加する教会の数は、24から41に増えた(その中5つの教会は昨年加わった)

すべての大教会が同様の形で成長しているわけではないが、24の回答のうち

- 大教会の50%は過去5年間のうちに成長した
- 37%は安定的な状態を維持している
- 8%は人員が減少した

大教会に関する幾つかの事実

大教会はとても多様である。貧しい環境に置かれている教会がある反面、大きな建物を所有した教会もある。密集した地域から遠く離れた静かな所に位置している教会もあるが、混雑した町中にある教会もある。教区内の主教座聖堂よりも、戦略的な面ではるかに重要な位置を占めている教会もある。

1993年以後、15の新しい都市大聖堂が登場した。それらの教会はイングランド聖公会の中で非常に重要な役割を担っている。都市大聖堂を指導している人たちは、「この新しい形態の共同体が、地域社会の中で宣教と牧会の新しい機会を開いた」と言う。

研究チームは、更にこう付け加える。“大教会は所属教区の中で重要な役割を担っている。それらは近隣の教会と地域教会を支援することが出来る。更に、大教会は公的で大衆的な性質を持っており、いつも大勢の訪問者を受け入れている。なによりも大教会は、礼拝と宣教において、所属教区と地域の中心とみなされている。”

下記は、大教会の質的研究調査で言及された成長の要因である。

- 新しい礼拝と集会を主導すること
- 大衆的な関心を集めること
- 歓迎ともてなしの質を向上させること
- 教育プログラムの開発
- 宣教志向性の強化
- 礼拝、メンバーシップ、そして外部への奉仕によって、包括性と多様性を促進する

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙Ⅰ 3:6

3

衰退を防ぐ “簡単な解決策”は無い

どのような要素が 衰退と関連しているのか？

調査の結果、教会の衰退に最も大きな影響を与える二つの要素が明らかになった。

1 子どもと 若者の減少

若い世代を維持するという課題

教会に出席する人々の世代交代が行われず、10代や青年期の若者を留めておくことが出来ないために、教会は衰退している。

年齢	教会登録者	月1回以上 礼拝出席者の比率
16-19	8.2	2.2
20-24	7.6	1.4
25-29	10.3	1.7
30-39	14.8	3.1
40-49	23.5	4.0
50-59	30.0	4.1
60-69	41.9	8.3
70-79	49.2	10.6
80+	53.5	13.8

図 3. 英国家庭の長期的研究‘社会の理解’2009-2011。
年齢層ごとの、人口に対する聖公会信徒の比率(自分を聖公会信徒とみなしている人と、現在も教会に関わっている人)

国による調査の結果から見てくるように、教会出席率が大きく減少した理由は、「教会に来ない大人が増えたから」ではない。「多くの人々が大人になってから、元の教会に来なくなった」からである。「ヨーロッパ的価値観の研究 European Values Study」の結果によれば、「人生の中で宗教はとても大事である」と答えた聖公会信徒のうち、たったの 36%が、家庭で学ぶことが勧められる大切な素質として「宗教的信仰心」を挙げた。これに対して、「良いマナー」は 94%、「寛容と尊重」は 83%だった。

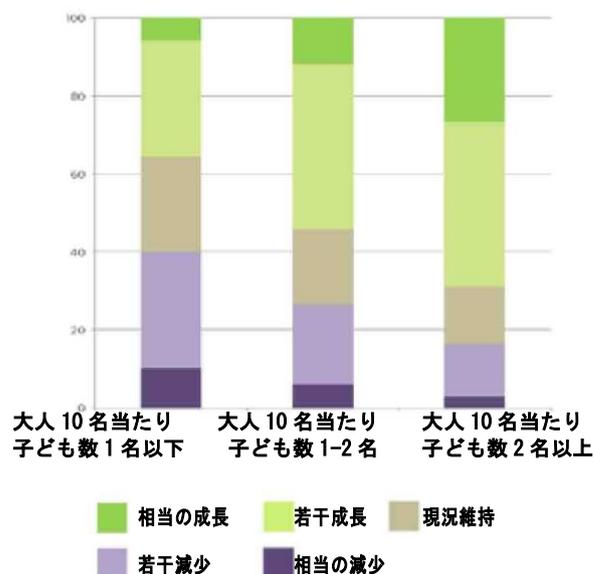


図 4. 若い世代が出席する教会は 2 倍の成長をみせている。



ほとんど半数 (48%) の教会では、
16 歳以下は
5 名未満である。

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

ほぼ半数近い教会において、16歳以下は5名未満である。しかし調査結果によれば、成人に対する子どもの比率が高い教会は2倍近く成長する傾向がある。

子どもや若い世代、及びその親世代に宣教の焦点を当てる必要がある。教会は、信仰の探求を続けるため、活発に若者たちを励まし続けることのできる人材やプログラム、またその戦略に対していかに投資できるかが試されている。

職員採用とプログラム

調査結果によれば、若い世代に向けた最良のプログラムの中には、共同体を形成する新しい方法が含まれている。これらは多くの時間と努力を必要とする。

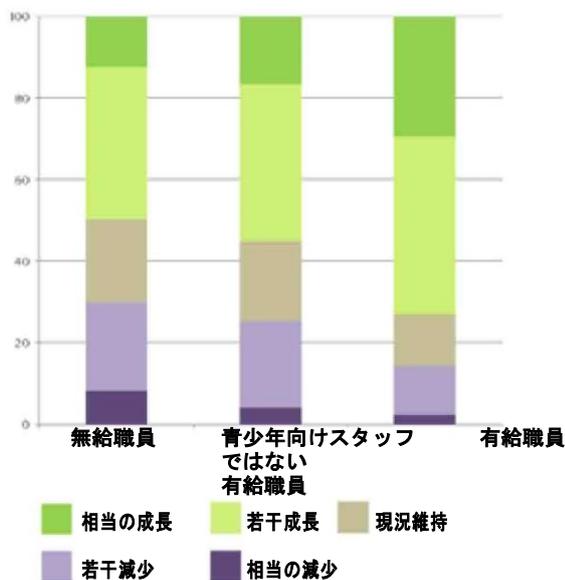


図5. 青少年向けスタッフを雇用する教会たち

研究チームは、教会成長と青少年向けスタッフの雇用との関連性について調査した結果、それらに明らかな関連が見られるということが分かった。青少年向けスタッフを雇用した教会の衰退率は、他のタイプの有給職員を雇用した教会の半数に過ぎなかった。

青少年と若い成人層に関わることは、きわめて大事である。20代のうちに教会に属した人々は、おそらく残りの人生においても引き続き教会に残るであろう。しかしそうでなければ、そのひとたちを導くことは難しいであろう。

意識に留めておくべきことは、“鶏が先か卵が先か”の可能性である。例えば、「親は子どもに多くの事を提供する教会にしか来ない」かもしれないが、教会にいる子どもの人数によって、教会が子どもに提供できることも変わってくるのである。地域教会への調査では、職員数とプログラムについて質問した。そして、成人に対する子どもの比率と教会の成長に最も大きな影響を与えるものは何かについて検討した。

その結果、子どもと若い世代に関連する事柄はすべて、「子ども：成人」の比率と互いに関係しているという事が明らかになった。

教会の成長に関連する事柄は、次の通りである。

- ▶ 子どものために考案された礼拝
- ▶ 若者を対象とするプログラム
- ▶ キャンプと修養会
- ▶ 教会学校

特に、若者たちを対象とするプログラムと教会の成長との間には、とても密接な関連があった。「修養会、発表会や、キャンプを開催している」と答えた21%の教会の中で、ちょうど3/4が成長を遂げた。その他の教会では、その半分しか成長が確認されなかった。

調査回答者たちは、若い家庭を教会に導くことが重要であることを認識していた。教会が子どもたちに魅力的に感じられるのであれば、親たちも教会に出席し、子どもたちも継続して教会に出席するだろう。ここに希望がある。

回答者たちは下記のように述べた。

- ▶ 家族礼拝は月1回程度
- ▶ 子どもに焦点を合わせた特別礼拝を通して、普段教会に出席していなかった親たちをひきつける
- ▶ 子どもと家族が、通常の礼拝において、歓迎されていることを感じてもらう
- ▶ 礼拝の途中に、日曜学校や子どものためのコーナーを設ける



“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙Ⅰ 3:6

- 礼拝の時間とスタイルに注意する
- 「メッシーチャーチ」 Messy Church

主教座聖堂の信徒は、人口統計学的には高齢化の傾向があるが、これに対応するための新しい道を探している。

調査に参加した三つの主教座聖堂は、子どもと若者、その家族の心をとらえるために、新しい戦略を開発した。この戦略は、多くの若者が参加する聖歌隊活動と合わせて進められている。

ウェイクフィールド Wakefield 主教座聖堂は2012年に新しい“コミュニティ宣教者”を任命した。この職は、外部への奉仕プログラムと、若者とその家族のためのクリスチャン養育プログラムを策定する役割を担っている。

サウスウェール Southwell 主教座聖堂は、最近新しい役職を置いて職員を採用し、彼らに聖堂教育部の指導、及び大規模な総合学校 comprehensive school の新しいチャプレンとしての任を与えた。

グロスター Gloucester 主教座聖堂は平日の、“メッシー主教座聖堂” Messy Cathedral と、毎月開催される未就学児礼拝を含む、子どものための活動を再導入した。

4つの主教座聖堂で実施した子どもの礼拝参加者の調査において、子どもたちに主教座聖堂の最も良いところを尋ねた。

“全部だよ！「子ども教会」もみんなも親切だし、クリスティングル(Christingle:キリストを象徴するオレンジに赤いリボンを付けた飾り)サービスとかクリスマス、収穫感謝際もあるしね。私はここで洗礼を受けたけど、すごかったよ〜。” (6歳児)

“僕ら、聖餐式をして、友達に会って、お菓子を食べてジュースも飲むんだ” (7歳児)

“主教座聖堂では、新しい事を学べるし、発見することもできます。そして、神様にもっと近づけるよう、他の人たちと一緒に礼拝することもできるんです” (12歳児)

2 合同 (amalgamations) の効果



教会は、ひとつの共同体にひとりのリーダーがいる方が、より成長する可能性がある。

“合同 amalgamations” という用語は、どのような構造であれ、二つ以上の教会が一人のリーダーの元へ結集することを意味する。多くの合同の場合、聖職禄 benefice が付与されるが、聖職の兼任や、他の非公式的な過程を通してグループ化する教会も、通称、“合同”と呼ばれる。

研究結果によれば、幾つかの教会が並列してグループ化した場合より、一人のリーダーによる単一の教会の方が、より成長する可能性が高かった。

信徒の規模に対するデータ分析によれば、教会が合同すると、衰退しやすい傾向にある。しかも合同した教会の数が多ければ多いほど、衰退する可能性はさらに高まった。即ち、合同に参加した教会の数が増えるほど、事態はさらに悪化する。

チームによる宣教・牧会 Team Ministries が、合同よりも、数値的により成長したことを示す根拠はない。チーム宣教・牧会は、チームなしの場合よりも成長率が低く、在住司祭がいる教会に比べると成長率はきわめて劣った。

研究チームは多様な合同のあり方を正確に比較するために、調査対象教会の2006年参加者数を基準として、0～14名、15～29名、30～49名、50～99名、100名以上の五つに分類して調査を行った。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

2006年から2011年まで

小規模教会(0~14名、15~29名)は一番積極的な成長を見せた

成長の減少が始まる平均値は、教会が30名以上の規模に伸びた頃からだった

(すべての教会規模にわたって)多くの教会の合同と衰退傾向との間には、残念な相関が強くみられた。

さらに大きい教会(50~99名、あるいは100名以上)でも単一教会は、変わらず高い出席率を記録した。年間変動率においても、他のどんな大きい合同教会よりも良い結果であった。たとえば、50~300名規模の教会の出席者数が減少する傾向があったとしても、

(その数は多くなかったが)300名以上のより大きい教会は成長し続けてきた。

イングランド聖公会の12,500のパリッシュ(教会区)のうち、8,400のパリッシュにおいて、合同とチーム宣教・牧会が実施された。(2011年のデータ)

(最近の統計である)2011年によれば、イングランド聖公会のパリッシュのうち、71%が複数の教会区(multi-parish)によるチームに属しているか、チームで聖職禄を受けていた。

1960年の数値は17%に過ぎなかった。

出典:「イングランド聖公会の現状と数値 Fact and figures about the Church of England」. イングランド聖公会中央財政委員会統計部、1962年

事例研究

ラドフォード諸魂及聖ペテロ教会 Radford Parish of All Souls and St Peter

教区: サウスウェルとノッティンガム

有形: 都市の地域教会

成長: 2006年 週平均礼拝出席者 15名
2011年 週平均礼拝出席者 80名以上



2006年、キャロリン(Carolyn)とマーク・ギルモア(Mark Gilmore)夫妻は、レッドフォード地域教会の信徒指導者(lay minister)に任命されたが、当時5年間の空白期に、平均信徒数は15名に減ってしまっていた。パリッシュには2つの教会があった。‘諸魂’と‘聖ペテロ’のうち、1つは伝統的な教会で、もう一つは社会奉仕タイプのプロジェクトに適した地域の建物だった。

キャロリンとマークは、児童福祉士兼家庭福祉士であるレイチェル(Rachel)と一緒に働いている。彼女はギルモア夫婦を除く、唯一の有給職員であった。レイチェルはこれまで一度も教会に出席しなかった

人々のみならず、教会周辺の家族たちとも関係を結ぼうとした。このため、彼女の役割は未来を開く鍵であり、教会の持続的成長の鍵とも思われた。教会スタッフチームは、地域の小学校とも積極的に関わった。教会と学校の社会的協力によって、イスラム教とシーク教の子どもやその家族まで、定期的に教会を訪ねてくるようになった。ここには成長中の「メッシーチャーチ」(Messy church)もあった。

現在、この教会の三つの形態の‘聖ペテロ’、‘諸魂’、そして‘メッシーチャーチ’の毎週平均出席者数は、80名に上がっている。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

カテゴリー
パリッシュ分類

□	把握出来ない
■	複数パリッシュ
■	単一パリッシュ

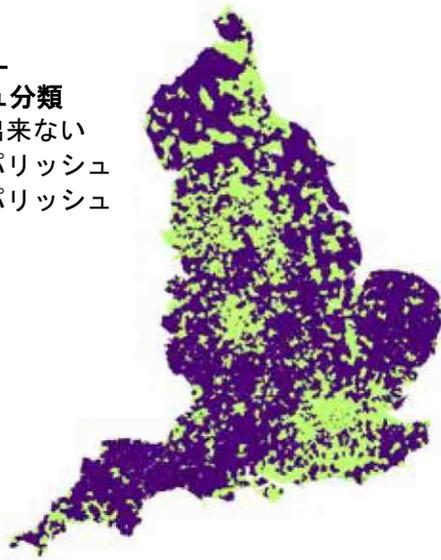


図 6. 合同の分布を表す地図

“ある牧師は、彼女がいかに洗礼・堅信の準備に時間を費やしていたかを次のように語っている。‘…私にとって悲しかったことの一つは、任されていたパリッシュが、二つから五つに増えてしまったことです。私は急に、もうこれ以上やっていけないと感じるようになりました。’”

調査結果によると、このように大規模な合同 (amalgamation) の現場にあって活動している教役者は、多くの場合 (少数の例外はあるものの)、事務職や建物管理、主日礼拝の維持などに益々労力を傾注せざるを得なくなり、そのために教会の成長に関わるその他の活動には力を尽くせなくなる。2011 年に行われた「宣教・牧会経験に関する調査」 (the Experiences of Ministry Survey) によれば、有給の牧師は週に 8.7 時間を、事務や組織上の仕事に費やしている。また、2013 年の「教会の成長に関する調査」 (the Church Growth Research) は、その数値が伸びており、ことに合同が行われたところで顕著だったことを示している。

「チーム体制」についての比較

「パリッシュ合同」問題と共に行われた「チームミニストリー」についての調査によると、「チームミニストリー」はチーム監督司祭と、一人または複数のチーム司祭、そしてその他のスタッフ (教役者または一般信徒) によって担われる。現在イングランド聖公会では、493 のチーム宣教・牧会が展開されている。その内、六つの大教区に、イングランド聖公会の中でも活動的なチーム宣教・牧会の、1/3 以上が集中

している。しかし、多くの大教区では、そのような例は極めて稀である。このことから、次のような結論を引き出すことができる。

「チーム宣教・牧会が、その他の試み以上にの数値的な成長を示しているという証拠は、全くない」。チーム宣教・牧会に関する研究は、合同に関する研究ほどはっきりしていないが、主日及び平日礼拝への出席、選挙の記録などの数値によると、「チームミニストリー」は、それ以上の宣教・牧会体制よりも成長する可能性が低い」と言われている。特にチームミニストリーは、一人の牧師が一つの教会を牧会する教会に比べて、著しく成長の度合いが低い。合同が行われているところについて言えば、チームによる宣教・牧会は成長の可能性があり、また現に成長してもいる。チーム牧会・宣教に関わっている多くの一般信徒ないし教役者のリーダーたちが、合同やチームミニストリーを支持しており、これらが成長を遂げている例もある。しかし数値から見ると、これらの共同的な試みは、概して教会の数値的成長に悪影響を及ぼしている。合同や、チーム牧会・宣教のいずれの研究結果からも、「多くの教会が合同すれば、それだけ衰退の危険性が高くなる傾向がある」ことがわかる。

召命

研究チームは、「教役者数の増減がないところや、また衰退しているところでも、教役者に対するパリッシュや教会数の比率を増やすことが必要とは限らない」と指摘した。

教役者になろうとする候補者の数が少ない理由の一つとして、多くの教会で召命の素地をはぐくむ働きがなされていないということがある。2011 年までの 10 年間に、志願者を出した教会がわずか 3 分の 1 に過ぎないという事実は注目に値する。

「信徒リーダーを支える信徒」の増加

研究結果は、宣教・牧会につながる可能性を持った多くの潜在的な人材が、まだ手つかずの状態にあることを示唆している。しかもその中には、将来接手を受ける人がいるかもしれないのである。それは、「信徒」指導者、更にはそのような指導者を補佐する人たち (lay lay leader)、つまり正式な教会のトレーニングを受けておらず、「教会バッジ」 (church badge) を持っていない立場で、教会運営に携わる人たちである。「教会の新しい表現」を調査した研究チームも、このことをはっきりと確認している。

“ わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 ”

“この調査結果は、ひとつ以上の聖職者や教会（特に複数の教会）を持つパリッシュへの批判ではない。このことは、どれほど強調しても足りない。調査の過程で我々は、複数の教会がある状況下でなされている、宣教・牧会の質の高さと、関わりのみごとさに、絶えず感銘を受けてきた。むしろこの結果は、「組織（体制）というものがいかに宣教活動を全般的に解放させ、また抑制するか」ということの指標として見るべきであろう。”

デイビット・グッドヒュー (David Goodhew) 博士、合同とチーム宣教・牧会研究部

衰退をもたらす その他の要因

建物の維持

建物は教会の成長にとって支障とも、助けともなりうる。研究チームの報告によれば、調査の対象となった牧師の約半数(47%)が、建物の維持を相当の重荷と考えている。

“ある牧師は、主要な建物の維持計画のために1年間を資金集めに費やしていた。そのことは宣教活動への集中を著しく妨げた。”

しかしながら、建物は多くの場合(例えば都市中心部の教会や大教会、主教座聖堂など)宣教を助け、拡大させることのできる資産でもある。

教会堂の改築は、成長に良い効果をもたらす可能性がある。“新しく修築した会堂は、礼拝にとってより親しみやすい場となり、また平日でも気軽に利用できるようになる。そのため、平日の活動に際しての、会堂使用頻度が伸びている。”

“…新しいセンターとして、「メッシー教会」や学童のためなどに用いられる場合がある。いまや我々は、私自身が21年前に教会を訪れた時よりも、ずっと幅広い層の人々を相手にしようとしているのである。”

礼拝も、例えばより良い暖房装置や、ピウ(ベンチ形の長い椅子)の代わりに普通の椅子を置くことなどによって、いっそう快適なものにすることもできるだろう。”

“沈滞”

物事を目的をもって選択するのではなく、確たる考えもなしに漫然と行くと、衰退を招くことがわかった。礼拝に関する調査への回答の中に、そのような例が見られた。研究チームは、「個々の礼拝スタイルはそれほど重要ではなく、そのスタイルがただ受け継がれたものではなく、選び取られたものであることが重要だ」と述べている。衰退の原因となりうるものは、“我々の礼拝への働きかけ、多様性、活力、包括性等に関して沈滞している度合い”であり、それに対して、“活力は、自らの振り返り、選び取っていく姿勢から生まれる”と結論付けている。

成長に悪影響を与える教役者の姿勢

すでに調査結果から明らかになったように、成長に結びつく効果的なリーダーシップとは、特定の資質と技術を持っていることと、教会を成長させようという意志とが合わさることだ。反面、調査結果からは、教会の成長にあまり役立っていない、いくつかの資質も確認されている。それは「思い入れ」と「固執」と「おせっかい」である。これら自体がはっきりと負の資質であるとは言えないが、このような傾向の人は、柔軟性を持って人々を新たな方向へと導く能力に欠けることがあると研究チームは指摘する。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙Ⅰ 3:6

ここでもう一度、**召命**(calling)について述べておくのがよいだろう。召命に従ってゆく中で、他の人に比べ、教会の成長を導くためにより適している人がいる。

変化や活動への参加に 消極的なメンバーと、 按手された教役者に全てを任せる姿勢

変化や適応する意欲が教会の成長と関連していたのと同様に、会衆が変化に消極的であることは衰退に繋がることを、調査結果は示している。信徒が安定か、あるいは変化を志向するかが重要であることは、調査結果から明らかである。しかし、変化を快く思わない人たちがいることも、はっきりしている。これらの問題には、礼拝のタイミングとタイプが含まれる。建物をどのように、またどんな時に使うか。そして特により多くの多様な人々(若者や高齢者、比較的新しく加わったメンバーと古株のメンバーなど)へと関わるよう、信徒リーダーシップを発揮させること。調査への回答の中では、変化に対して消極的であることが、しばしば教会の衰退の理由として挙げられていた。

“教会は成長したいと望んでいるが、それはあくまで、新しく来た人たちが全てを、それまでどおりにしておいてくれる場合に限ってのみのことである”

同様に研究チームは、教会の成長のためには按手された教役者ばかりに任せっきりにするのでなく、信徒が進んで責任を担うことが重要であるということをはっきりと示している。そうではないところでは衰退の危険性が高い。

“教会は衰退に瀕し、変化はさほど望めない。子どもたちの活動を支えようとする大人たちもおらず、日曜学校もなく、礼拝には変化が全く認められない。聖歌隊は多様な年齢の人たちが参加する礼拝で歌うことを拒否し、現代的なものは好まない。教会委員会(Parochial Church Council)の顔ぶれは毎年変わらず、無気力で関わりごとを避ける。会衆はただ礼拝にやってきて、聖餐にあずかり、すぐに家に帰りたがる。そして次の日曜日までは教会のことを忘れている。教会の成長を望む人はほとんどおらず、そのために働くことのできる人数は更に少ない。”

成長にも衰退にも それほど重要な関わりを持たない要因



最後に、調査する中で、教会の成長や衰退にも、さして重要な影響を及ぼさないと考えられた要因がいくつかある。それは、

- 神学的な伝統
- 指導者のジェンダー、人種、それに配偶者の有無である

この報告書の電子データ(英語)は、下記のウェブサイトへ。

www.churchgrowthresearch.org.uk/report

以後の修正版も、このサイトで公開される。

“わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。”

コリントの信徒への手紙 I 3:6

研究チームに関する詳細

データ資料分析と 教会の特徴分析



David Voas 教授

本研究のデータ分析に関する部分は、**David Voas 教授**の指導の下に、**エセックス大学の経済・社会学部のメンバー**が担当した。本研究計画の一環として、このチームは「中央教会」(central church、単数)が集めた全領域にわたるデータだけでなく、その他のデータ(例えば、脱会者(deprivation)に関するものなど)の分析を入念に行った。ついで研究チームは、教会の成長にまつわる一連の仮説の検証に取り掛かった。チームはある特定の諸要因が及ぼす影響を精査する一方で、その他の諸要因や「干渉要因」(intervention)を統計的に「統制」(control)し、それにより、相互関係か、因果関係かを識別するという難問を解決するよう試みた。**エセックス大学**はまた、**Voas 教授**の指導の下で、本研究の教会の特徴分析に関する部門も担当した。この部門は1,700の教会への調査に加えて、必要な場合、更に詳細な追跡調査をも行った。また、諸教会に呼びかけて、入念なサンプリングの作業に参加してもらい、それによってより広い範囲にわたる状況が確実に考慮されるようにした。この調査によって、広範囲にわたって、成長している教会に見られる特徴の分析が可能になるデータを収集することができた。

主教座聖堂、合同、 「教会の新しいあり方」 と 教会開拓



David Goodhew
牧師・博士



George Ling
牧師・
主教座聖堂参事会員



Cathy Ross 博士



David Dadwell 牧師



John Holmes 牧師・
主教座聖堂参事会員

ダラムの聖ヨハネカレッジ ST John's Collegeの**クランマー・ホール Cranmer**から参加したチームのメンバーは、同ホールの「牧会実務」(Ministerial Practice)のディレクターである**デイビッド・グッドヒュー David Goodhew 牧師・博士**の指導の下、主教座聖堂、合同、及び「教会の新しい表現」に関する研究部門において指導的な役割を担った。彼らは、**博士で主教座聖堂参事会員である、ジョージ・リングス George Lings 牧師**の指導の下、救世軍調査班 Church Army's Research Unitと協力して研究・調査に当たった。リングス牧師は、「教会の新しい表現」、教会開拓の分野でも広範な研究に取り組んでいる。カデスドン Cuddesdon のオックスフォード大学 Ripon リポン・カレッジにある **0xCEPT**(オックスフォード教会論及び実践神学センター)から研究チームに参加したメンバーは、同センターのディレクターである**キャシー・ロス Cathy Ross 博士**、及び**デイビッド・ダッスウェル David Dadswell 牧師**の下で、教会開拓に関するより詳細な研究に取り組んだ。0xCEPTからのメンバーは、ロンドンやその他のイングランドの教会の、教会開拓に関する広範な諸伝統を考慮に入れた。彼らは、どのような開拓(タイプや状況、指導体制、実践などにおいて)がどのようにして教会の数値的な成長を促しているか、なぜか、といったことについて答えを得ようと試みた。チームメンバーは、学際的な、また多分野を包括した研究方法を採用して、広範囲にわたる実務家、理論家、会衆などを対象とし、教会開拓に関する我々の理解をいっそう深めようと努めた。その中でも、主教座聖堂や大教会に関する研究は、主教座聖堂参事会員の**ジョン・ホームズ John Holmes 牧師**の指導の下に遂行された。彼らは、出席者数についての統計分析、主教座聖堂の会衆の特徴を描き出すための質的研究、そして地方の四つの主教座聖堂を対象とした。一週間を通しての礼拝来訪者に対する調査を組み合わせることで、ここ何年かの主教座聖堂の成長についての理解を深めようと試みた。大教会に対する調査結果との比較によって、主教座聖堂における成長を、他のカテドラルと似た特徴を持つ教会の場合との対象においてとらえることができた。

それぞれの研究チームは皆、既存のデータの精査に加えて新たに調査・面接を実施するなどして、広範にわたる数値的、質的な研究方法を駆使して研究を行った。

教会の成長 わたしたちには分からないこと

これらすべての仮説に加えて、
わたしたちは出来る限り謙遜でなければならぬし、
気を付けなければなりません。
わたしたちが既に見てきたように、
神様のなさることは察することが難しく、
予測は全くできません。

Q/というテレビのクイズ番組を見ると、
毎回も出てくる言葉があります。
“誰にも分かりません！！”
教会の成長について学ぼうとする賢明な学生であれば、
誰でも、そしていつでも、神様がこの世で行われている
愛の神秘を認めなければなりません。
また、「なぜある時点で、ある方法によって、
ある主教座聖堂とある教会が成長したのか」
決して知ることが出来ない場合がある、という事を
認めなければなりません。

つまり、神様は神様であり、
わたしたちは神様ではないのです。

ジョン・ホームズ・ケノン司祭、主教座聖堂報告書

救い主キリストよ。あなたが見せて下さった愛に
すべてのいのちの秘密と、すべての人の希望があります。
今この時、私たちに必要な、静かな勇気を与えて下さい。
私たちはこの時代に生まれることを願ったわけでもなく、
この時代を生きていくことを選んだりもしませんでした。
しかし、
この時代にはびこる問題が、私たちにとっての挑戦になりますように。
この時代に発見したことに、大きな喜びを感じる事が出来ますように。
この時代に満ちみちた不義の前で、怒りを発することが出来ますように。
この時代が持つ可能性を通して、私たちを霊の火で燃え立たせてください。
この時代の活気を通して、私たちを新たにして下さい。

あなたのみ国のために。
アーメン。

(聖公会の祈禱サイクル、1998年)

コーディネーター挨拶 宣教局教育部・礼拝部長 司祭 丁 胤植

海外（イングランド聖公会）の報告書ではありますが、わたしたちの教会
にも何らかの形で役に立つことを願い「教区宣教会議 2017」の年に合わせ
て翻訳作業を行いました。この資料を通して各教会の悩み・課題などを
共に分かち合う動きがより活発に進むことを期待します。力を合わせて下
さった多くの方々に感謝いたします。

www.churchgrowthresearch.org.uk

Copyright © 2014 The Church Commissioners for England
Design by Creative Stream (www.creativestream.co.uk)



日本聖公会中部教区
教育部・礼拝部 協働翻訳



THE CHURCH
OF ENGLAND
ARCHBISHOPS'
COUNCIL



THE CHURCH
OF ENGLAND